

# 指宿市立図書館に集められた カンショの単行書の紹介

元九州農業試験場作物第一  
研究室・指宿市立図書館

湯之上 忠

「こ」で紹介するカンショの単行書は、戦中・戦後の食糧難の時代に書かれたカンショ栽培の専門書である。A-45を除けば、昭和18年から昭和24年に出版されている。この時代ほどカンショが大事にされ、多くの国民がカンショの増産に励んだことはなかった。素人にもわかりやすく書かれ、自ら芋作りを実践してきた著者らの力作は、初めて芋を作る人々の役にたったに違いない。

これらの本はA-45を除けば戦争末期から戦後の食糧難の時代に書かれたものである。この外に、本館に収集したカンショ専門の単行書で目録掲載の本は別にもあるが、上記の本について簡単に紹介する。

## 1. 丸木長雄氏の本 について

A-45。末尾にある著者の略歴は、元愛媛県技師・福岡農士学校農場長で、昭和29年当時みつち会会長・東京農業大学三鷹農場長・大日本農会常議員などの肩書きになっている。「甘藷栽培精説」の書名で、終戦直後の9月に一万部が発行された。次に昭和22年3月、版を小さくして同一書名で発行された(A-44)。3冊目の「甘藷」は、昭和29年6月第7版として発行されたもので、22年3月が初版になっている。丸木氏が書かれたカンショの本はその後も増刷されたものと考えられ、総部数は数万部に達したのかも知れない。

(A-39)の序文には「著者20年の体験に基ずき」と書かれている。昭和の初めから自らカンショを栽培し、多くの体験を積んで、農家非農家のカンショを作る人々のために懇

## 図 書 一 覧

- |                                                         |                                                             |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| A-39 丸木長雄：甘藷栽培精説、八雲書店<br>(東京) (1945) 166 p、21<br>cm     | cm                                                          |
| A-40 石井宗吉：甘藷の名人、丸山先生とその栽培法、講談社(東京)<br>(1949) 178 p、18cm | A-45 丸木長雄：甘藷—みつち叢書7一、みつち出版部(鎌倉) (1954)<br>265 p、18cm        |
| A-41 恒屋棟介・岩松清四郎：甘藷篇、全国食糧増産同志会(東京) (1948) 169 p、18cm     | A-46 高橋廣治：自然科学に立脚した甘藷新栽培法、養鶏之日本社(名古屋) (1946) 113 p、18<br>cm |
| A-43 丸山方作：生理応用甘藷の多収獲栽培法、講談社(東京) (1946)<br>174 p、18cm    | A-47 黒川 漸：甘藷の多収獲栽培法、帝国農會(東京) (1943) 69 p、<br>18cm           |
| A-44 丸木長雄：甘藷栽培精説、八雲書店<br>(東京) (1947) 267 p、18           | A-48 大石俊雄：増産要訣甘藷の栽培法、霞ヶ関書房(東京) (1944)<br>158 p、15cm         |

切に解説されている。版を重ねるにつれて増補改定して、図や写真を多く使い、詳述された内容は、非農家の人達にも分かり易い本であったと考えられる。

## 2. 丸山方作氏の本 について

(A-40)は石井宗吉氏(元明治大学教授)が、甘藷の名人として有名であった「丸山方作氏のカンショ栽培法」について書かれたものである。(A-43)は丸山氏本人の著書である。この本のはじめに、大日本報徳社飯田榮太郎氏の「初版の序」というのがあって、それによると、昭和十三年春日となっている。この本が発行された昭和21年以前に何回か刊行されたもののようである。またこの本の外に、「これからの甘藷栽培法」という本も刊行されたいが当館にはそれは無い。

丸山方作氏は静岡県農会の技師であり、自ら実践し、研鑽を積んだ実際家であった。終戦の頃80才くらいであったようである。農会を辞して後は、大日本報徳社講師として東奔西走、各地に招聘されて指導に当たっておられたようである。

実は私も50年前、丸山先生の講演を聞いたことがある。鹿児島県が先生を招聘して農事試験場でカンショの話をしてもらった。その席に、県知事も出席されていたが、今では考えられないことである。

## 3. A-48、大石俊雄氏の本 について

この本の初版は昭和18年8月に発行され、1年後、2版は1万部の発行部数となっている。このはがき大の本は戦争末期の紙不足の証であろうか、今の時代はこんな小さな本は文庫本の外にはない。まことに貴重な本で

ある。

この本の序文に「著者大石俊雄君は、現代稀に見る篤農家にして」とあるとおり、篤学の士である。果樹園を経営し害虫の研究に素晴らしい業績を揚げた人であるが、戦時の食糧不足を考えて、カンショの増産に努めた。

適地ではない東北地方で、カンショの研究に没頭して驚くべき実績をあげ、望まれて伊達郡(福島県)農会の技師となったとあり、得がたい指導者であったのであろう。

## 4. A-47、黒川 漸氏の本 について

この本も昭和18年5月に、初版本3000部が印刷されている。著者は三十年余りカンショの栽培に研鑽せられ、永年の経験をもつ、熊本県鹿本郡千田村農会技手であった。

発行者帝国農会は、初心者にも理解容易で、技術員の必見に値するものとしている。

## 5. A-46、高橋廣治氏の本 について

この本の著者は愛知県知多郡大府町の住人で、その経歴は判らない。昭和21年4月8日初版が発行されて、その40日後には第3版が出たことを思えば、発行部数は判らないが当時10円の本がかなり売れたもののようである。

食糧難のおり、この作物の増産が何よりも有効であると信じ、著者は反(10アール)当たり二千貫(7.5トン)穫れると考え、研究を続けておられたようである。

## 6. A-41、榮週叢書「甘藷篇」 について

この本の発行者、全国食糧増産同志会とは会長の井上康氏の提唱する「栄養週期栽培法」によってあらゆる作物の増産を計ろうとする団体である。この時点で叢書のうち7冊が発

行されていた。この本は丸木・丸山・黒川・大石氏らと異なる立場の人達による著者である。他の8冊の本には見られない項目もあって、貴重な文献であるが、戦後の紙で質が悪く、変色が甚だしい。

以上9冊のコンショの専門書について簡単に紹介してきたが、この頃、他にどのような本が発行され、利用されたのか私には分からない。おそらく私が集めた本は極一部かも知れないが、昭和10年代から戦後にかけてコンショ専門の単行書は少なかったのではないだろうか。終戦を挟んで数年間、食糧難に苦しんだこの時代に、コンショの専門書はどのような役割を果たしてきたのか、私なりに考察してみたかった。

この時代ほど、コンショに国民が関心をもったことは無かったと思われる。全国の試験研究機関や大学でも研究は進められたが、試験場では多くの作物を平行して研究しなければならなかった。しかし、民間の研究者は集中的に自分の経営の中でコンショ研究に努めたのではないだろうか、したがってこのような人達が本を書くことになったのであろう。

ここにあげた本で見える限り、篤農技術は説得力があって、国民の共感を得たように思えてならない。農事試験場の試験結果も引用されており、大きく役だっているのだが、試験場の人が書いた本はA-45とA-57の外には見当らなかった。

## ◎ジャガイモと映画

### 『バスター』

イギリスのチップス（日本のフレンチフライ）はどの食堂でも、ソーセージなどと一緒によく食べられています。メガホンのような形の菓半紙にフレンチと魚を入れたフィッシュ・アン・チップスも立ち食い

で人気があります。  
犯罪史上で有名な大列車強盗事件を脚色した映画『バスター』で、メキシコに高飛びした主犯バスター（フィル・コリズ）に妻ジェーン役のジュリー・ウォルターズが当然のことながら自然に、「あしたはステーキとチップスがどうしても食べたいの」と口から出てきます。

「そんなこと言ったら、ここはイギリスじゃないんだぜ、そんなものあるもんか」との答えが返るシーンがあります。ステーキならどこでも食べられますので、彼女はチップス

が食べたいのです。日本人なら外国生活していて「銀シャリ」が食べたい、と言うのに相当しましょう。イギリスで言うチップスは飯（主食）とも言うべきもののなのです。

### 『シェーン』

アメリカ人の気楽な会話では、ジャガイモのことをスパッドspudとも言います。

もともと、小鍬（くわ）またはジャガイモを掘るために使ったスピード状の鋤（すき）から転化したものです。

映画『シェーン』の中でも、シェーンに向かってルーフが次のように言いました。

We'll all start hoein'spuds.  
Is that it?

spudは、この外、Society of the prevention of an unwholesome diet（不健康な食物を阻止する会）の略でもあります。実はこの会は、ジャガイモがイギリスに入ってくるのに反対したグループでした。

（浅間和夫）

